

令和3年度前期始業式挨拶（2021.4.5）

前期開始にあたって校長よりお話をさせていただきます。

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大に社会が大きく揺れた1年でした。振り返ってみれば、約1年前に政府より全国に「緊急事態宣言」が発出され、それから約2ヶ月の間は高校においても、臨時休業そして分散登校と感染拡大防止の措置が取られ、現在まで様々な制限下での学校生活が強いられております。特に、これまでのクラブ活動の練習の成果を十分発表する間もなく、この春卒業した3年生が悔し涙を飲んだ姿を皆さんも記憶していることと思います。まもなく高齢者の方へのワクチン接種が始まりますが、専門家の分析によると当面ワクチンの効果は、感染拡大の抑制には表れず感染拡大第4波は5月上旬には来るのではないかとのことです。本当に、先行きが見えない時代となりました。

さて、そんな中、私たちに勇気を与えてくれるニュースが3月にありました。それは大相撲春場所での関脇照ノ富士関の優勝、そして3年4ヶ月振りとなる大関への返り咲き昇進のことです。照ノ富士関は恵まれた体格と各界No.1ともいわれた腕力で、2010年の入門以来大関まで歴代3位（年6場所制）となるスピード昇進を果たした力士でした。当然、大関昇進後も横綱は間違いなしと誰もが疑わない実力者でした。

ところが、順調とみられた彼の相撲人生は2015年の場所中に右ひざを痛めて以来、糖尿病・C型肝炎等の内臓疾患にも見舞われ、あっという間に序二段まで陥落と転落人生になってしまいます。相撲には大きくは6つの階級があります。序二段は下から2段階目のものです。位にすると約150位落ちてしまったのです。大関経験者でここまで落ちた力士はこれまで居りませんでした。当然、彼は引退を親方に申し出るのですが、伊勢ヶ濱親方に説得されて現役続行を選びました。そして、この3月、史上初となる大関経験者序二段からの復活優勝につながったのです。

彼は優勝インタビューでこう述べました。「やっぱり何回もやめたいなという気持ちになりました。親方とも家族にもそのことを相談しましたが、みんな（復活を）信じてくれました。そこでもう一度頑張るんだという気持ちを後押ししてくれたので、その思いを自分の肩に背負ってやらないといけないなという気持ちでした。自分のためというより、やっぱり周りのひとたちに、恩返ししたいという気持ちの方が強かったです」と。

私は、このインタビューを聞き、人は何かを成し遂げる原動力を得るときに、「自分のため」はもちろんですが、「誰かのため」と強く思うことが逆境を跳ね返す大きな力になるのだなあと改めて思いました。ちなみに過酷な環境に置かれ時、再起・回復する心の力を「レジリエンス」と言います。この「レジリエンス」を強くする要因として「誰かのために」という思いがあるということです。

改めて皆さんに問います。皆さんの生活には何かをする時に「誰かのため」という思うことがあるでしょうか。口では簡単に言えても心に強く「誰かのため」と思うことは難しいことかも知れません。先にも触れましたが、2年前まで普通だったすべてのことが、コロナ禍で普通ではなくなりました。その中でも、皆さんが高校生を続けられていることは、家族の皆さんそして学校・地域の皆さんに関わる全ての方々の支えがあってのことかと思えます。まずは、そんな日常にしっかりと目を向けて、支えられていることに感謝する心を育てませんか。感謝の心は、自分の心を清浄なものに変えてゆきます。そして、いざ、自分が逆境に立った時に「誰かのために頑張る。やり遂げてやる。」という原動力として必ず自分に帰ってくることでしょう。

こんな時代と周囲を恨むのではなく、「レジリエンス」を10代後半に鍛える場面を与えてくれていると前向きに考えましょう。そんな青年であって欲しいと思います。

結びに、塩尻志学館高校の全生徒が、新型コロナウイルスから難を逃れ、1年間安心安全な学校生活を送れることを心から祈って、前期始業式の校長からの話とします。